

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	鎌倉市営住宅集約化事業に伴う新築工事(A棟)	階数	地上5F
建設地	神奈川県鎌倉市苗田三丁目445番5ほか5筆	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	105 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年7月 予定	評価の実施日	2023年4月4日
敷地面積	2,702 m ²	作成者	株式会社市浦ハウジング&プランニング東京支店
建築面積	632 m ²	確認日	2023年4月4日
延床面積	2,292 m ²	確認者	株式会社市浦ハウジング&プランニング東京支店



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	70%
③ 上記+②以外の	57%
④ 上記+	57%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>日本住宅性能表示基準 断熱等性能等級4を超える性能を有し、潜熱回収型給湯器を導入するなど省エネルギーに配慮している。サクラのシンボルツリーを配したエントランス広場、コミュニティ花壇、既存樹木の保存等、良好な緑地環境に配慮している。</p>		なし
<p>Q1 室内環境</p> <p>日本住宅性能表示基準 断熱等性能等級4を超える性能を有し、外皮性能に配慮。昼光率≥2.0%とし、カーテンおよび庇の2種類の組み合わせでグレア対策を行い、室内環境の向上に努めた。建築材料は、F☆☆☆☆を全面的に使用し、さらに建築基準法を満たす1.4倍以上の換気量を確保し、室内空気環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たし、内装計画においても明確なコンセプトに基づきそれを満たす取り組みを行い、居住者の生活環境の向上に配慮した。躯体は劣化対策等級3相当とし、更新間隔の長い室内仕上げや耐用年数の長い配管材を採用し、建物の長寿命化に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺のまちなみや景観に対して充実した取り組みをおこない、地域性・アメニティへも配慮している。外構緑化指数を50%以上とし、日照・植栽条件に応じた中高木および緑地を設置し、周辺住民および建物利用者が自然に親しめるように歩道上空地を設ける等、生物環境の保全と創出にも取り組んでいる。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱性能を省エネルギー対策等級4を超える性能とし、潜熱回収型給湯器を採用することで省エネルギーに配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ユニットバスシャワー水栓を小流量吐水形とし、さらに節水型便器を採用して節水に配慮。LGS工法、MB,PS、ビットを内配管等により設備との錯綜を回避し、部材の再利用の可能性を高めている。化学物質排出把握促進法の対象物質を含有しない4種類の建材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避に配慮している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される